

国語



小学校

小学校においては、学年の目標や指導事項を確かめ、学年の段階に応じて適切な言語活動を選び、単元や題材、単位時間のねらいを明確にして学習活動を展開する必要がある。

特に文章による表現力を高めることに重点をおくようにする。

また、国語指導の効果をいっそう高めるため校内の言語環境を整備し、国語科以外の教育活動の中で国語教育にも配慮し、言語活動が適切に行われるようにする。

一、国語科における基礎的な能力を高めるよう内容と方法にくふうを凝らし着実に実践する。

- (一) 文字や語句の指導を重視し、単元や題材及び一時間の指導の中に的確に位置づけるとともに、一人一人の習得の実態に応じて指導をくふうする。
- (二) 聞くこと、話すことの指導に当た

っては、他の領域の指導の際に、活動として行われているという安易さに流されず、指導計画や教材を検討し、ねらいを明確にして授業を展開するよう改善する。

二、読解指導と読書指導の関連を
じゅうぶん考慮して、読むこと
の指導の充実に努める。

- (一) 読むことの学習が、児童にとって励みとなるような学習指導を計画する。

このため、教材研究に当たっては文章内容及び技能の両面から教材構造の確には握し、指導すべき事項に軽重をつけ、確かな読解技能を身につけるようにする。

- (二) 読むことの活動の中にも「表現活動」を入れ、表現することによって理解がいっそう深まるようにする。
- また、読みの過程における評価をくふうし、主体的なよみの態度を助長する。

- (三) 読書に対する興味と意欲を高め、進んで読書に親しむ読書態度を育成する。このため、学校図書館との関連を考慮して、児童が意欲的に読書に取り組む機会を設け、読書指導を充実する。

三、作文の指導を計画的に行い
創造力を培うとともに、文章
を正確に書く態度を育てるよ

う努力する。

中学校

- (一) 作文の指導計画を整備し、指導時数を確保する。その際、指導計画はいつ、何をのほか、どのように書かせるかという作文の技能面の指導内容を検討するとともに、取り上げる内容についても偏りがないようにする。

- (二) 実作作文の時間の指導についてくふうし、効果をあげるよう努める。意欲の喚起、ものの見方、考え方、取材と整理のしかた等について研究するとともに、記述前、記述中、記述後の指導をくふうする。

- (三) 一人一人の文章表現力の向上を図るよう、個々の実態に応じた指導をする。また、評価や作品処理のしかたをくふうし、書く意欲や喜びを味わわせるようにする。

四、書写の指導を計画的に行い
文字を正しく整えて書く力を
育てる。

- (一) 硬筆、毛筆のバランスを考慮した指導計画を作成し、実態に即した指導法をくふうする。

- (二) 字形、筆順、点画、配字など基礎的な技能の指導を重視するとともに、作品主義に陥ることなく、指導目標に照らした具体的な評価や賞賛によって、望ましい態度、習慣を養うようにする。

中学校においては、領域比重(時数)を適正にし、思考力、創造性、豊かな心情、社会生活を高める能力、国語を愛護する態度等を育てる学習指導のあり方について検討する必要がある。

このため、教材を精選し、指導の重点の置き方をくふうし、ゆとりある学習指導を展開するとともに、特に文章による表現力の向上と、読書力を養うことに重点をおくようにする。

一、国語科における基礎的な能力の育成にいっそう努力する。

- (一) 小学校に比べると、生徒一人一人の文字力、語い力にかなりの差がでてくることを考慮し、基礎的訓練の場を設け、指導方法にくふうを凝らす。
- (二) 相手を尊重しつつ正しく聞き取り落ち着いた態度で話すなど、「聞くこと、話すこと」の習慣、態度の形成に努める。

二、文章を正確に読む能力を高めるとともに、豊かな読書力を身につけさせるよう努力する。

- (一) 生徒の実態に即し、読解技能の系統を正しくふまえ、文章を理解し鑑賞する基本的な能力と態度が確実に身につくよう内容と方法をくふうする。
- (二) 進んで読書しようとする意欲を喚